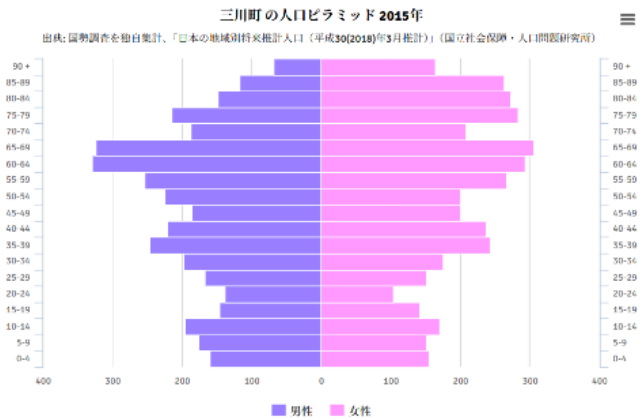
第２回 こうふく押切っ子協議会　　議事録

月日：令和７年１１月２５日（火）
時間：１０：００～１２：３０
場所：押切小学校　集会室

□６年生によるプレゼンテーション
　　１０：００～１０：４５
□学校運営状況の報告　１０：５０～１１：１０
□学校運営等への質疑・応答　２０分
□授業通覧　　１１：３０～１２：１５
□給食の試食　　１２：１５～１２：３０



◇６年生によるプレゼンテーション

プレゼン１＝「協力し合える町づくり」

三川町の現状

・三川町の人口が減少
・少子高齢化が進む
・若者層の減少

私たちが考える三川町の抱える課題

・高齢者の交流機会は多く優しさを感じるのが特徴。一方で、若者世代が興味を示すような交流機会や施設が不足している。結果として、若者世代の交流機会への参加が少なくなってしまう。交流することがなければ、明るく協力し合う力も失われ人口の減少にもつながる。

課題とどう向き合っていけばよいか

・地域の人々と昔ながらの行事を行うことで、地域の方と関わりをもつことができる。
・庄内地方の郷土料理教室を開催する。食を通してふるさとのよさを感じることができる。
・若い人のイベント参加が少ないように感じている。流行りの食べ物を売り、お年寄りの方と若い人が一緒に楽しむことができるイベントを計画する。

自分達にできる活動面として

・日頃から、地域の人への挨拶を積極的に行い明るい町づくりに貢献したい。
・地域の人と協力して花を植えるなどの作業をおこない、美しい町づくり、心のかよう町にしたい。
・「何もない町」ではなく、地域住民の意見を取りまとめたパンフレットを作成し、関心をひく町にしたい。

《委員からの質問や意見》

・素晴らしいプレゼンだった。現状・課題・課題へのアプローチ・自分たちにできることのプレゼンの柱建がしっかりできていた。発表の途中にあった「若者の交流」とはどんなことを意味しているかをもっと具体的に示してくれるとよかった。

・お年寄りの交流場所はあるが若者の交流場所がないということをあげ、自分たちは世代の異なる交流の場を望むとしていることが大変よかった。人口減少は確かに課題ではあるが、もっと広い視点でもとらえて明るい未来につながる考え方もできたらよかった。

・町は高齢者対策に力をいれてきた。自由な若者の交流の場とはどのような施設を希望しているのか具体的にすることが大事。また、花を一緒に植える作業を地域の誰に呼びかけたらいいのかまで提案をした方がよかった。

プレゼン２＝「三川町で安全に暮らすためには」

三川町ってこうゆうところ

・三川町は自然が豊かです

・鶴岡と酒田のどちらにも行くことができます

・人が親切で誰とも仲良くなれます

・子育てに力をいれています。

自分たちが思う三川町の課題

・人口減少や少子高齢化を抱えています。

・空き家が増えつつあります。　・犯罪などが増えてきている。

・移動手段が少ない。　・地域産業の担い手が不足。

課題とどう向き合うのか

・街灯を多くし、ブルーライトに変えていく。（犯罪が少なくなる）

・あいさつ　・住宅地を増やしていく。

自分たちにできること

・落ちているごみを拾う。　・資源回収をする。

・ポスターをつくる。　・地域ごとに訓練を実施する。

《委員からの質問や意見》

・ブルーライトが犯罪抑制に効果的な実例はあるのか。

→外国で効果があるとし、日本でも導入されている。

・犯罪が増えている年ごとの比較があるとよい。

・資源回収は何のために行っているのか？

→町をきれいにするためやリサイクルのため。

プレゼン３＝「にぎやかで活気ある町にするには」

三川町の現状

・人口が減る傾向にある。　・６５歳以上の高齢者が多い。

・２０代以下の若者が減っている。　・子育てがしやすい環境の町。

・教育施設が増えている。　・農業が盛んに行われている。

自分たちが思う三川町の課題

・人口が少なくなっている。　・生まれてくる子供が少ない。

・高齢者がたくさんいる。　・公共交通が不便（バス以外ない）。

・観光場所が少ない。　・お店が少ない（イオン内の店もなくなっていく）

・行事が少なくなっている。

魅力を伸ばすためには

・子育て支援施設、教育施設を増やすことで、子どもたちが来たくなる施設や気軽にあずけられる場所をつくる。

・農業体験などのイベントを開催する。アイガモ農法の紹介やお米試食会など。

自分たちの提案

・バスを多く運行させたい。　・イベントを多く開催させたい。

・高校や大学がほしい。　・スーパーマーケットがほしい。

自分たちにできそうなこと

・三川だけのイベントや祭りを増やす。

・三川町のいいところをまとめたポスターをつくる。

・三川町の特産物でスイーツや食べ物をつくる。

《委員からの質問や意見》

・数字がはっきりしていて納得する発表であった。自分たちでできそうなことの中で、三川町のいいところをまとめたポスターをつくるとあった。自分たちが三川町の好きなところを分かってくれると、三川町を盛り上げようということにつながりありがたかった。

・高齢者がたくさんいるとあったが、町内会長さんをはじめ、仕事を退職した高齢の方が町の安全をはじめ支えてくれていることも知ってほしい。

・イオンの話など自分事でみてくれて発表してくれているので分かりやすかった。自分たちにできそうなことは、大掛かりなことをあげているように感じた。身近でできることまで落とし込んだらなおよかった。

・ポスターやパンフレット・チラシなどは町でも７０周年にちなんで作成し発行している。それを見ない人が多くいることも残念なことなので、その存在を知らせることも大事。

・イベントの開催があったが、今、行われているイベントについてどう思っているのかについての考えがあってもよかった。

◇学校運営状況の報告　　渡邉　岳　校長

○第２回の協議会では、昨年度より委員の方々と対話する機会をつくってきた。押切の子はよい子たちでよく考えもする。一方、その考えたことを人に伝えることを苦手としていた。発表する機会を多くもつことで自信がついてきた。

○今年度の重点と具体的な取り組みとして、「個別最適な学びとグループ・ペア学習による協働的な学びの推進」をめざしてきた。この取り組みを通して、子どもたちが自由で柔らかな雰囲気で自分の考えを伝えることができてきた。

○国語と算数は全学年で可能な限り TT 授業を行っている。理解の遅い子や情緒的に不安定な児童にきめ細やかな指導ができ効果的である。今後、学力の向上をめざし上位層を意識した取り組みも取り入れていきたい。

○子どもたちが、ゆったりした時間の中でよく遊びよく学べるようにと昨年から日課表を変更した。今年度は、放課後の職員打ち合わせや会議を水曜日に集約し、教材研究等の時間をより多く確保できるようにした。

○「学級での集団活動や縦割り活動を通した絆づくり」では、多様なかかわりから絆づくりや居場所づくりを行い、自己有用感・自己肯定感を高める取り組みを行っている。特に、全校でのランチルーム給食では、学年を超えた交流機会が増え「居場所づくり」につながっている。また、人数の少ない６年生ではあるが児童会活動をよくリードしてくれている。子どもたちの思いを大切にした活動を促すことで、より主体的に取り組む姿が見られる。

○「多様な運動と望ましい生活習慣による健康な体作り」に関わることとして、中学校のスクールカウンセラーである佐藤克彦先生を招いて、スクーリーンタイム、メディアと上手な付き合い方の PTA 研修会を実施した。「平日は我慢をするから休日には自分にご褒美」というような考え方もあっていいとアドバイスをいただいた。

○「地域の環境や人材を生かした三川ふるさと学習」の取り組みが２年目を迎えた。総合的な学習の内容を見直し、１年生から６年生までの学習内容ができあがった。ふるさとへの想いを持つことから発信まで各学年で取り組んだ。

○「新日課表による学びづくりと働き方改革の推進」においては、学級経営の安定や学校の安定が働き方改革のベースにあることを共通理解しながら、地域や保護者との連携を大事にしてきた。その成果が職員の勤務時間減少につながってきている。

◇学校運営状況への質問など　各委員の方々より

・ALT が来年度の８月まで不在の状況が続くことで、子どもたちの外国語指導や外国文化との交流機会が失われることを残念に感じている。

→英語指導員２名配置しており、この先生方のがんばりもあって英語の力はついていると感じているし、学校からも評価いただいている。また、国際交流事業を複数回行うことで、英語力の向上や外国の文化に触れる機会を設けている。

・ふるさと学習へのアプローチが学年を追うごとに視野の広がりがある。低学年は、身近な地域学習から始まり、6年生では町のことを考えた学びとしている。3つの小学校で共通に取り組みながらディスカッションすることがあってもおもしろい。
・押切小学校の先生方がよく子どもの様子を見てくれていることがありがたいし、それによってつなげていただいた専門の方によるアドバイスが親にとっては大変ありがたかった。
・社会科で室町時代を学習し、アトクの館で茶道にふれる体験を行ってくれた。指導する方としては、子どもたちの喜ぶ様子や事後のお便りに大変感謝している。
・働き方改革で下校時間が早まったことは、職員の退校時間も以前より早くなった。また、子どもたちにとっても、日が暮れる前に帰宅できているようだ。
・地域における子どもたちの受け皿については社会的な課題である。